

既刊「電中研レビュー」ご案内

- NO. 32 「人間と技術の調和に向けて ヒューマンファクター研究 」1995. 3
NO. 33 「放射線ホルミシス 研究の意義と取り組み 」1996. 3
NO. 34 「ガスタービン研究 高効率発電の主角を担う 」1997. 1
NO. 35 「地下の探査・可視化技術」1997. 5
NO. 36 「送電線コンパクト化技術の開発 高分子材料の適用 」1998. 3
NO. 37 「乾式リサイクル技術・金属燃料FBRの実現に向けて」2000. 1
NO. 38 「大気拡散予測手法」2000. 3
NO. 39 「新時代に向けた電力システム技術」2000. 6
NO. 40 「原子燃料サイクルバックエンドの確立に向けて」2000. 11
NO. 41 「需要家と電気事業のエネルギーをトータルで考える
需要家の特性解明と省エネ技術 」2000. 11
NO. 42 「原子力発電所の人工島式海上立地」2001. 1
NO. 43 「酸性雨の総合評価」2001. 2
NO. 44 「石炭ガス化複合発電の実現に向けて
実証機開発の支援と将来への研究展開 」2001. 10

編集後記

電中研レビュー第45号「温暖化の解明と抑制」をお届けします。

観測された事実と客観的な科学研究から明らかにされた地球温暖化の進行を減速させ、予想される未曾有の異常事態を回避するには地球規模での対策が不可欠です。

このレビューがお手元に届く頃には、温暖化防止の京都議定書の批准に向けて種々の運用ルールを最終決定する気候変動枠組み条約・第7回締約国会議（COP7：2001年10月29日から11月9日までモロッコのマラケシュで開催）も無事終了し、2002年の発効に向けた国内制度の整備に全国民の叡智が結集していることでしょう。

有限な地球の環境と資源を上手に利用し、人間社会の持続的発展を確実にする方法を確立することが、新しい世紀の幕開けに人類に課せられた最重要課題になっております。

温暖化問題への対応には、温暖化防止に向けた国内外の制度作りなどの短期的・現実的課題と、温暖化の緩和

や適応のための様々な技術開発や社会システム設計などの長期的課題に、総力をあげて取り組まなければなりません。

本レビューでは、温暖化問題に関する当研究所の取り組み姿勢や研究ポテンシャルを紹介しました。しかし、問題が巨大なだけに一研究機関にできることは自ずと限りがあります。逆に、それだけ挑戦甲斐のある問題でもあります。これからも当研究所に課せられた課題に精一杯取り組み、適宜、役に立つ情報の発信に努めたいと考えておりますので、皆様のご理解とご鞭撻を賜りたいと思います。

身に余るような巻頭言を寄せて下さったNCARの笠原先生には当研究所の気候研究能力の向上に言葉では言い尽くせないほどの暖かいご指導をいただきました。また、研究ネットワークを通じて世界の大勢の方から温暖化研究を推進するための「パワー」をいただきました。最後になりましたが、皆様に心から感謝いたします。



電中研レビュー NO.45

平成13年11月14日

編集兼発行・財団法人 電力中央研究所 広報部
100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1 [大手町ビル7階]
(03) 3201-6601 (代表)
E-mail : www-pc-ml@criepi.denken.or.jp
<http://criepi.denken.or.jp/index-j.html>
印刷・株式会社 電友社

本部 / 経済社会研究所	100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1	(03) 3201-6601	我孫子研究所	270-1194 千葉県我孫子市我孫子1646	(0471) 32-1181
狛江研究所 / 情報研究所 / 原子力情報センター			横須賀研究所	240-0196 神奈川県横須賀市長坂2-6-1	(0468) 36-2121
ヒューマンファクター研究センター / 低線量放射線研究センター / 事務センター			赤城試験センター	371-0241 群馬県勢多郡宮城村苗ヶ島2567	(027) 283-2721
201-8511 東京都狛江市岩戸北2-11-1	(03) 3480-2111		塩原実験場	329-2801 栃木県那須郡塩原町関谷1033	(0287) 35-2048
